

今読まれた福音は、失われた罪人を探し出す神の姿をたとえで話しています。このたとえは3つの失われたシリーズになっています。1つ目が失われた羊 (The Lost Sheep)、2つ目が失われた銀貨 (The Lost Coin)、朗読は省かれましたが、最後が失われた息子 (The Lost Son「放蕩息子」)です。3つ全部朗読すると長くなるので今日の聖書と典礼では、「放蕩息子」の話は省かれています。3つのたとえ話に共通するのは、「罪人を捜し出した神の喜び」と「悔い改める」です。今日は、この2点について考えます。

1つ目のたとえに出る羊は、方向感覚の鈍い動物だと言われています。群れの中において、羊飼いや犬に導かれていると安心して草をはむことができます。ところが群れから離れて、1匹になってしまうと不安になりじっとしていることができなくなります。高いところの上って足がすくんで身動きが取れなくなったり、藪の中に迷い込んで体を傷つけて立ち往生してしまうことがよくあります。羊飼いは、羊の性格をよく知っているので心当たりの場所に行って、羊を探し出して、肩に担いで帰ってきます。

このような羊の習性は、どことなくわたしたちに似ていないでしょうか？ 職場、家庭、学校などの日常生活で傷ついたり、さびしい思いをしがちです。自分で迷子になっているなど感じたらどうしたらいいのでしょうか？

カトリック教会の伝統の中で大事にされてきたのは、ゆるしの秘跡です。3つ目のたとえ話にある放蕩息子が父の家に帰る姿は、ゆるしの秘跡のプロセスをよく表しています。けれども、ゆるしの秘跡は、自分の罪と過ちを蒸し返して、人にも話さなくてはならないのかと気後れしてしまう方も多いと思います。ちょっと質問してみましょう。「洗礼を受けてから、ゆるしの秘跡をまだ受けたことがない人、あるいは、前にゆるしの秘跡を受けたのがいつか思い出せない人」は手を挙げていただけますか？・・・ それでは、平均すると1年に2回はゆるしの秘跡を受けている方は手を挙げていただけますか？・・・ ありがとうございます。残念ながらゆるしの秘跡がうまく活用されていないのが現状かもしれません。そこで、今日は、ゆるしの秘跡の新しいアプローチをご紹介します。このアプローチは3段階になっています。

最初は、「賛美と感謝の告白」です。日常生活上の出来事で、神様に感謝することを振り返ってみます。罪のリストよりも恵みのリスト、感謝することのリストを初めに作って、それを告白します。9月号の巻頭言にも書かせていただきましたが「課題のリストより恵みのリスト」をまず作りましょう。

2番目が、「生活の告白」です。「生活の中で、わたしにとって重荷になっていることを告白します。その重荷の克服のために、自分に足りないことがあったり、怠っていることに気づいたら、それを言葉にして告白してみましょう。

最後が、「願いの告白」です。生活の中で、このような重荷と弱さを抱えたているわたしをどうか受け入れてください、と主に願いましょ。神様は、わたしたちに罰ではなく、平和・喜

び・救いを与えてくださることを信じて、自分の願いを告白しましょう。

その他の詳しいゆるしの秘跡の受け方については、天使の森にも置いてある『目からうろこシリーズ ゆるしの秘跡』を参考にして下さい。

ゆるしの秘跡というと、自分の欠点を認めて、それを修正するイメージがあるかもしれませんが、そこに重点はありません。もし、そこに重きを置くと、ファリサイ派や律法学者の態度とあまり変わりません。非の打ちどころのない自分になろうとすることになってしまうからです。むしろ、最も大切なのは、苦しんでいる時にそのまま神様の懐に飛び込むことです。神様は、決して拒絶したり、非難したり、嫌な顔はされません。放蕩息子を迎える父の姿を思い出して下さい。決して、息子を迎える時に条件を付けたりされません。放蕩息子を迎える父の姿は、ゆるしの秘跡で脚光を浴びたヴィアンネを守護の聖人にいただく高円寺教会の3人の神父さんにも重なります。罪や苦しみに沈んだ一人ひとりを暖かく迎えて、元気づけて送り出したい気持ちで待たれています。だから、苦しんでいたたり、孤独でいたり、信仰生活で悩んでいる方は、どうかゆるしの秘跡を受けて下さい。神父さんにも、ゆるしの秘跡を授ける準備をさせていただいていますから、忙しそうにしても遠慮はいりません。思い切って声をかけてみてください。私も2週間前に、ゆるしの秘跡を受けました。1時間半、坐って準備する中で、叙階前の、さまざまな不安や自責の念が起き涙もこぼれて来ました。お隣の方も同じように涙を流していました。そして、神父さんからゆるしの宣言を受けて、神様に癒しと励ましをいただきました。

神様は、苦しむあなたが戻って来ることを心待ちにしています。「私は、本当に神様に待たれてたんだ、神様は私の全てを抱きとって下さってるんだ」という実感を一人でも多くの方に味わっていただきたい。その実感は、神様の喜びですし、高円寺教会の共同体の喜びでもあります。迷い出た羊を皆で暖かく迎える教会になれるようにこのミサで願いましょう。

イエズス会助祭 柴田 潔